

小規模校のデメリットを改善、解消する施策

1. ICT の活用による教育の充実

小規模校では、児童・生徒数の少なさから授業の多様性や活気に欠けるといった課題が指摘されています。これに対して、ICT（情報通信技術）を活用した取り組みが効果を上げています。

例えば、ある地域では、複数の小学校間で遠隔合同授業を実施し、異なる学校の児童同士が対話しながら学ぶ機会を設けています。これにより、児童のコミュニケーション能力の向上や、多様な意見に触れる機会が増え、教育の質の向上につながっています。

2. 地域主導の学校統合と通学環境の整備

都市部のある中学校では、5校を1校に統合する際、地域住民と保護者が中心となって協議を重ね、行政はサポート役に徹しました。統合に伴う通学距離の増加という課題に対しては、自転車通学を許可するなどの柔軟な対応を行い、生徒の負担を軽減しました。

また、統合後に使われなくなる校舎についても、新たな教育施設や地域のコミュニティスペースとして活用するなど、地域の活性化にも寄与しています。

3. 小中一貫教育の導入と通学支援の強化

農村・漁村部の隣接地域では、4つの小学校を統合し、中学校の敷地内に新たな小学校を設置することで、小中一貫教育を実現しました。統合により多くの児童が長距離通学を余儀なくされましたが、地域の路線バスを活用し、通学路の整備やバス便の確保を進めました。

さらに、通学費の一部を補助する制度を導入するなど、保護者の負担軽減にも努めています。

4. 小規模校の特色を活かした教育活動

茨城県教育委員会では、小規模校の特色ある取り組みをまとめた事例集を作成しています。この中では、小規模校ならではの利点を活かし、個別指導の充実や地域との連携を深める活動が紹介されています。例えば、少人数制を活かして一人ひとりに目が行き届く指導を行い、地域の行事や活動に積極的に参加することで、児童の社会性や地域愛を育む取り組みが行われています。

廃校の利活用についての事例紹介

①廃校解消に向けた地域（行政）の取組

廃校 Re 活用プロジェクト（京都府福知山市）

廃校になる学校が決まった時点で、廃校活用プロジェクトが立ち上がり、うまく活用している事例
金融機関と連携協定し、廃校と民間事業者をつなぐ方法として「廃校マッチングバスツアー」を実施
し、公民連携により 16 廃校のうち 10 校の活用が実現。【行革甲子園 2024 グランプリ】

<https://www.city.fukuchiyama.lg.jp/soshiki/10/28852.html>

②廃校施設を防災施設として活用する事例

1. 地域防災・複合交流施設としての活用（北海道利尻富士町 旧本泊小学校）

この施設は、2017 年に「利尻富士町地域防災・複合交流施設」として再活用されました。この施設
は、地域防災拠点としての機能を持ち、平時には子育て支援や町民の健康づくり、都市部の大学生のサ
ークル合宿など、多目的な交流の場として利用されています。

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afeldfile/2019/06/03/1414781_1.pdf

2. コミュニティセンター・道の駅としての活用（滋賀県東近江市 旧政所中学校）

この施設は、「鈴鹿の里コミュニティセンター」として活用されています。この施設は、市役所出張所
や診療所、市民サロン、会議室、調理室、体育館などを備え、地域の防災拠点として避難所や臨時ヘリ
ポートの機能も有しています。さらに、校舎の一部を活用して道の駅「奥永源寺溪流の里」も併設さ
れ、地元産の野菜や特産品の販売、飲食店の運営など、地域振興の拠点となっています。

<https://michino-eki.info/reports/4468>

③統廃合に際しての廃校となった校舎の活用事例

日本では、少子化や過疎化に伴う学校の統廃合により、多くの学校が廃校となっています。これらの
廃校施設は、地域資源としてさまざまな形で再活用されています。以下に具体的な事例を紹介します。

1. スタートアップ支援施設への活用（福岡県福岡市 旧大名小学校）

この施設は、2017 年にスタートアップ企業の支援施設「FUKUOKA growth next」として生まれ変わ
り、新規事業への総合的な支援を行い、地域の雇用創出や経済発展に寄与しています。

「旧大名小学校跡地まちづくり構想」に基づく公募による跡地活用

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/jutaku-toshi/kaihatsu/toshi/kyudaimyosyogakkoatochi.html>

2. コワーキングスペースとしての活用（宮崎県宮崎市 旧穆佐（むかさ）小学校）

この施設は、「MUKASA-HUB」として再利用され、スモールビジネスの支援を目的とした coworking space やミーティングルームなどを備え、ビジネスコミュニティの形成を通じて地域の活性化に貢献しています。

<https://renovationoftheoldschoolbuilding.wordpress.com/>

3. 観光・商業施設への転用（兵庫県淡路市 旧野島小学校）

この施設は、「のじまスコラ」として再生され、農・食・学・芸をテーマに、レストランやショップ、動物園などを備え、地域内外の人々に親しまれる観光スポットとなっています。

<https://nojima-scuola.com/aboutus/>

4. 体験型観光施設への活用（茨城県石岡市 旧朝日小学校）

この施設は、「朝日里山学校」として再活用されています。この施設では、地元の農産物や自然、歴史を活かしたさまざまな体験プログラムを提供し、訪れる人々に自然環境の素晴らしさを伝えています。

<https://www.city.ishioka.lg.jp/ishiokameguri/ishiokashiwotaiken/page001140.html>

5. 美術館への転用（北海道新冠町 旧太陽小学校）

この施設は、「太陽の森ディマシオ美術館」として生まれ変わりました。フランスの画家ジェラルド・ディマシオの作品を常設展示し、芸術と自然が融合した独特の空間を提供しています。

<https://dimaccio-museum.jp/information/story/>

これらの事例は、廃校施設が地域の特性やニーズに合わせて多様に活用され、新たな価値を生み出していることを示しています。文部科学省も「廃校活用事例集」を作成し、さらなる活用推進を図っています。

文部科学省 みんなの廃校プロジェクト

全国各地の優れた活用事例の紹介や、活用用途を募集している廃校施設情報の公表等を通じて、廃校を「使ってほしい」地方公共団体と、廃校を「使いたい」事業者等への情報発信・マッチングを行っている。https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/1296809.htm